

平成 28 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン離島・僻地医療実習

実習生：徳久 美都子

実習先：長崎県対馬病院

実習期間：平成 29 年 2 月 1 日（水）～2 月 24 日（金）

実習生感想：

2 月 1 日から 2 月 24 日までの間、長崎県対馬病院にて離島・僻地医療実習に参加させていただきましたので報告します。

対馬は日本の島の中では奄美大島に次いで 4 番目の面積を誇る大きな島です。本土から 132km、韓国まで 49.5km に位置しているため国境の島と呼ばれています。人口は約 33000 人で、その 3 分の 1 以上は 65 歳以上の高齢者です。対馬には上対馬病院と対馬病院の 2 つの病院があり、対馬の医療の中核を担っています。私は初め、離島の病院というと設備不足なイメージがあったのですが、対馬病院ではそのようなことはなく、大学病院と比較してそこまで差を感じることはありませんでした。その一方で、対馬病院から片道約 1 時間の豆敷出張診療所では、レントゲンすらない状況で患者さんを診療されており、同じ島内の中でもかなりのギャップを感じました。せっかく往診に同行させていただいたので、口腔内の悩み相談や軽く診察もさせていただきましたが、本土の方に比べて圧倒的に歯数が少ないことに驚かされました。対馬病院でも何名か口腔内を診察させていただいたのですが、50 代で総義歯の方も複数名おり、改めて歯科の啓蒙の必要性を感じました。



口腔内は残根多数ですが、ご本人に歯科治療必要という自覚はありません。

がん治療に関しては総合診療科で初診時に肺がんが発覚した方もいました。その後の全身精査、確定診断を得るまでの流れを診ることができました。患者さんによっては家族がいるからなどの理由で本土でのがん治療を希望される方もいるそうです。中には、化学療法を福岡で終えてフォローを対馬で行っている方もいました。外来化学療法室では新薬オプジーボを使用している患者さんもいました。病棟には緩和ケアでいつ容体が悪くなってもおかしくない方もいました。普段口腔がんしか診る機会のない私にとっては大変貴重な機会だったと思います。



気管支内視鏡のアシストもさせていただきました。

今回の実習ではがん治療だけでなく離島医療の現状の一部を知ることができました。島内で治療困難と判断したケースでは迅速に本土の病院と連携し、ドクターヘリで搬送を行っていました。先生方も職員の方々も慣れた様子で、最初の連絡から1時間後にはヘリが到着していました。



福岡和白病院の医療用搬送ヘリコプター『ホワイトボード』

実質3週間と短い期間でしたが、職員の皆様が丸となって、対馬の方々のために尽力されている姿を見て大変感銘を受けました。研修を受け入れてくださった川上院長先生を始め、指導医の大石先生、内科の先生方、研修期間お世話になった職員の皆様に心より感謝申し上げます。私も先生方の教えを忘れず、地域医療に貢献し、いつかはあの先生に診てもらってよかったと言ってもらえるような歯科医師になれるよう精進していきたいと思います。



STさんがVEの練習に付き合ってくださいました。



後半は患者さんのVEを任せてもらいました。



休日に海神神社に連れて行ってもらいました。



対馬名物対州そばです。とても美味です。



内科梶野先生と。



内科の先生方と。向かって右端が指導医の大石先生です。



実習報告会にて